

やまぐちっ子学力向上だより

第 155 号 R7.3.7

山口県教育庁義務教育課

誰一人取り残さず、全ての子どもに「わかる」「できる」の実現を

3月に入り、1年間の総まとめの時期となりました。各学年において身に付けておくべき資質・能力が、子どもたちに確実に身に付いているかを把握し、課題を課題のままにせず次の学年に進級させていくことが大切です。



各学校の実情に応じて様々な取組が行われていると思いますが、学年や教科の壁があり、組織的に取り組むことが難しい状況があるかもしれません。本号では、学校や地域の実情に応じて学び直しを行うことを通じて、学年や教科の壁を越えて、子どもたちの「わかる」「できる」を増やしている学校の取組を紹介し、各学校においても参考にできるところは採り入れていただき、組織的な学び直しの充実を図っていただきたいと思います。

長門市立深川小学校の取組 ～「深川寺子屋」の取組を通して～

1～2週間に1回、放課後に1時間程度、年間を通じて地域ボランティアの方が来校して「深川寺子屋」を実施しています。この取組は平成27年度から始まり、今年で10年目を迎えます。3・4年生は希望者、5・6年生は全員が参加し、自分に必要な学習に取り組み、学習内容の定着に励んでいます。地域のボランティアの方が毎回7名程度参加され、担任や専科教員、他学年の先生方も学習支援に関わって、一人ひとりを大切にした個別指導が行われています。

【6年生の児童の感想】

寺子屋をやって、先生（地域の方）たちがいつもわからないところをしっかりと書きながら教えてくれたり、間違ったところもどのように間違っているかを教えてくれたりするのでいつも苦手を克服することができています。

寺子屋の学習は、地域の方に来ていただいて一緒に勉強できるのでとても自分の力になります。地域の方に気軽に聞けるし丁寧に教えていただけるのでとても助かっています。

【「深川寺子屋」の様子】



光市立島田中学校の取組 ～「まナビの時間」の取組を通して～

月に1回程度、授業の1時間分を使い、「まナビの時間」を設定しています。「ナビ」とは、「ナビゲーション」を意味し、子どもが自己調整しながら学習を進めていってほしいという意味が込められています。学習のサポートを希望する生徒は質問ルームで学習を行い、希望しない生徒は学習計画を立てて自身に必要な学習に取り組み、振り返りまで各自で実施しています。質問ルームでは、来校された約10名の校区ボランティアの方と一緒に、3年生の約20名の有志が1、2年生へのサポートに当たっています。生徒からは「個別に教えてもらえるのでわかりやすい」「教えることでより理解できたし、思い出せたことがあったので自分のためにもなった」といった声が聞かれています。

【「まナビの時間」の取組の様子】



美祢市立大嶺中学校の取組 ～「ミニスキルアップタイム」の取組を通して～

学習内容を生徒が確実に身に付けるようにするために、朝学の時間を活用し、ミニスキルアップタイムに取り組んでいます。1年生は数学と英語で、2年生は数学と理科で実施し、2週間で一単元をクリアしながら次の内容に進んでいきます。曜日ごとに学年で実施する教科が決まっており、その教科を担当する教員全員で、生徒の定着状況に合わせて支援に当たっています。



【ミニスキルアップタイムの様子】

子どもたちの感想には、「自分の苦手なところの勉強ができるからとても楽しい」「先生が教えてくれて良かった。勉強しやすい」といった声がありました。

(例：1週目 月曜日)
学力調査で課題のある単元を基に、やまぐちっ子学習プリントを1枚選び、実施する
※火曜日には別教科を実施



(例：1週目 水曜日)
【ミニスキルアップタイム】
月曜日に実施したやまぐちっ子学習プリントで定着率の低い生徒に全校の教科担当で支援する



(例：2週目 月曜日)
1週目と同じプリントに取り組み、定着状況を確認する。また、次の単元のプリントも実施し、次のサイクルへ移る

